

1915-16

—100年前の鷗外とその時代—

会期 | 2016年2月11日(木・祝) - 4月3日(日)
 開館時間 | 10時 - 18時(最終入館は17時30分)
 ※会期中の休館日 2月22・23日(月・火)、3月22日(火)
 会場 | 文京区立森鷗外記念館 展示室2
 観覧料 | 一般300円(20名以上の団体:240円)

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料
 ※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引き
 ※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

○展覧会関連講演会

「大正四、五年の森鷗外 —転生への渴望—」
 文学者森鷗外が退官を機に、歴史小説作家から、史伝作者へと変貌していった過程を、「傍観者」から「行為者」への転生として捉え、鷗外における「近代」の意味に迫ります。

講師 | 小泉浩一郎氏(東海大学名誉教授・森鷗外記念会会長)
 日時 | 3月19日(土) 14時~15時30分
 会場 | 文京区立森鷗外記念館 2階講座室
 定員 | 50名(事前申込制)
 料金 | 無料
 申込締切 | 3月4日(金) 必着

申込方法

○往復はがき
 往信に「3月19日講演会」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館「展示関連イベント」受付係までご応募ください。

○Eメール
 件名に「3月19日講演会」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールを明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpにご応募ください。

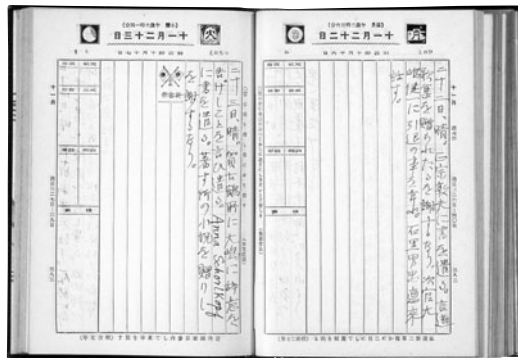
※申し込みは、1通につき1名様(お一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
 ※ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

○ギャラリートーク

展示室2にて当館学芸員が展示解説を行います。
 2016年2月24日、3月9日、23日
 いずれも水曜日14時~(30分程度)
 申込不要(展示観覧券が必要です)

「二十二日、晴。次官大嶋健一に引退の事を言ふ。」

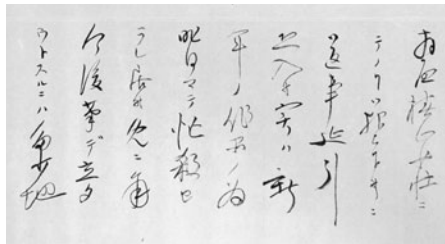
今から約100年前にあたる大正4年11月、鷗外は日記にこのように書き記しています。35年間つとめた陸軍からの引退を、はじめて正式に表明した日のことでした。鷗外が引退を表明し退官するまでの大正4~5(1915~1916)年頃は、鷗外にとって大きな転換期であったと言えます。母・峰子の死、加えて夏目漱石や上田敏等近い文人との死別、歴史小説から史伝へと移行していった時期でもありました。鷗外が転換を迎えていたこの時期に、世間ではいったい何が起こっていたのでしょうか。本展示では、日記・書簡・原稿等の鷗外が書き残した資料と共に、当時の新聞記事を展覧します。当時の最先端メディアである新聞には、史伝『渋江抽斎』『伊澤蘭軒』等の連載作品や、退官に伴った鷗外自身の進退が、しばしば記事として登場していました。これを通して、鷗外がどのような時代に生きていたのか、また鷗外が当時の人々の目にはどのように映っていたのかを、感じていただけたら幸いです。



大正四年常用日記



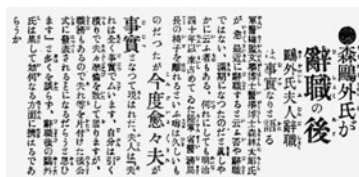
写真「森鷗外博士五十五才寫しける」



鷗外筆賀古鶴所宛書簡 大正4年12月10日付



「丙辰乞骸骨 同班購書為贈」草稿 (「丙辰存稿」より)



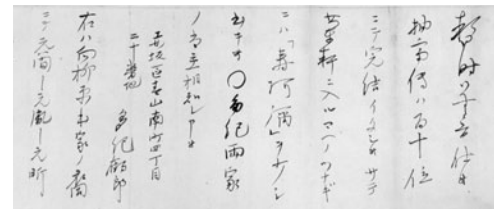
時事新報 大正5年4月10日



東京日日新聞 大正5年1月13日 [国立国会図書館蔵]



中央公論 第30年第11号 大正4年10月



鷗外筆渋江保宛書簡 大正5年4月27日付



113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
 TEL 03-3824-5511
<http://moriogai-kinenkan.jp>

○電車
 東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
 東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
 都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
 ○バス
 都営バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 都営バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 B-ぐる千駄木・駒込ルート
 「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
 ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

